

植物共生学詳論 (2単位)

担当者氏名 宮本 太・御影雅幸・三井裕樹

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

人類がこれから地球環境とどのように関わって行くかを再考するためには、自然環境を的確に読み取り、その結果に基づき保全・保護を考え、利用を進めて行かなければならない。そのためには、自然環境における植物の実態や役割を理解するための基礎的知識を養う必要がある。一方、自然環境を利用するにあたっては、人と自然環境を考慮した植物生産を理解し、植物資源を有効適正に利用する必要がある。本講義では、地球環境を保護、保全および利用するための知識を深め、方法論を習得する。さらに巡検により理解度を深める。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

自然と二次的自然	里山保全	希少植物	地域資源植物
風土	環境評価	薬用植物	人と生活

◆授業の進行等について

	テーマ	内 容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	自然と二次的自然 (1)	地球環境と自然	各テーマと内容に沿った情報提供および意見交換ができるように各自で資料収集をしておくこと。 自然環境と人がどのように共存していくかを考え。地球環境の未来と人の心と生活の豊かさの調和をどのように進めていくかを各自の研究課題の中から検討すること。
2	自然と二次的自然 (2)	環境評価	
3	里山保全と人の生活 (1)	生物の生態と風土のかかわり	
4	里山保全と人の生活 (2)	自然との共存	
5	里山保全と人の生活 (3)	身近な薬用植物	
6	希少植物の保全 (1)	絶滅の恐れのある種の保存	
7	希少植物の保全 (2)	生態系を攪乱する要因と対応	
8	希少植物の保全 (3)	持続的生物多様性	
9	地域資源植物の活用 (1)	人の生活と自然	
10	地域資源植物の活用 (2)	植物資源の有効利用	
11	風土と気象 (1)	風土は大地と大気の化合物	
12	風土と気象 (2)	風土と農業	
13	暮らしと景観 (1)	地域的土地利用	
14	暮らしと景観 (2)	自然征服から自然順応へ	
15	暮らしと景観 (3)	自然破壊と有用植物資源	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)

適宜、必要に応じて支持する。

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)

バイオセラピー学入門 (講談社)

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

レポートおよび発言、討議の内容による評価

◆オフィスアワー

水曜日 12:00 から 13:00 各担当教員室

◆その他受講上の注意事項

講義ごとに各人からそれぞれのテーマに沿って、意見や考えを話してもらい討議を進める